

【開催日時】 令和3年2月27日（土） 午前10時00分～午後12時00分

【開催場所】 能勢町役場西館 会議室

【出席委員】 委員18名中11名出席の下、開催した。※順不同
神吉紀世子、猪井博登、神出計、榎原友樹、野津俊明、三浦勝志、三浦璿子、東亮一、中谷博、久慈真里、八木修、東良勝

【欠席】

尾下忠、中西信介、中井正明、上西雅之、田中利明、大城桜子

【事務局】 中島総務部長、百々総務課長、矢立政策推進係長、株式会社建設技術研究所（業務支援）

【協議事項】

- （1）前回意見の振り返り
- （2）基本構想策定に向けた論点整理
- （3）今後のスケジュールについて
- （4）その他

・開会

・会長あいさつ（代理：副会長）

副会長）あいさつ代わりに、前回の振り返りについて述べさせてもらう。

今、日本全国の自治体が同じような問題で悩んでいる。最近思うのが、今回のコロナ禍での問題が、10年前の東日本大震災のときに言われたことと同じだということ。東日本大震災のときもいろいろな問題が起きたが、それは独特な問題ではなく、その地域が元々抱えていた問題が噴出したものであった。その後の復旧は、今まで抱えていた問題を、急激な形で解決を図らなければならなくなったが、問題そのものは従前からのものであった。今回のコロナ禍において、自分が関わっている交通の問題も同じような構造であり、もともと抱えていた問題を短い期間で考えなければいけないように大きく変化した。悩んできた内容は実は以前から一緒であると考えている。

前回の会議にて自分が参加した班で出てきた意見をまとめると、コロナの中で求めるべきものは、効率性や産業を中心にするニューノーマルではなくて、能勢町が持っている価値を新しいニューローカルとして変化させていこうということだと思う。変化していくというのは怖いこと。ただ、こういうときなので、皆で力を合わせなければならない。その変化に向けてどのように進めていくかというのが、この総合計画だと考えてい

る。

そのためには、ここにいる人たちだけではなく町民の皆さんに動いてもらう必要がある。それは町民に態度を変えてもらう、行動変容してもらうことである。環境問題の研究者が、環境に関する種々の取り組みを分析した結果、恐怖のメッセージを発した場合、ゼロもしくはマイナスの効果しかないということを言っている。人間は恐怖のメッセージを発せられると立ち向かわなくなる。一方で将来に向けてプラスのメッセージを発すると、人々は態度を変えてくれるようになる。つまり昔の総計では、苦しいことを書いてそれを実現することを求めていたが、行動変容を求めるのであれば、明るい未来、明るい能勢町の将来のために、ニューローカル、つまり大阪のまちなかではなく、能勢だから得られるものを目指す必要がある。地域創生の会議に参加した武庫川女子大の先生が話していたが、こんなすばらしい生垣を管理している、こんなすばらしいまちはない。こういうところが、大阪の中心から車で1時間弱程度の場所にあるのは、非常によいことだということだった。こういう特性あるまちが、今後どう変化していくかという像について、皆さんで議論していきたい。本日、議事に出てくる基本理念や将来像が、そういう部分につながると思う。ただ、暗い部分を話し合いに出していけないというわけではない。危機感を共有しながら、最後にこういうまちを作る、こういう方向に向かおうという明るいビジョンを描ければ、それが将来像につながると思う。

今回、皆さんで合意を作りたいのは、大きな基本方針、どういう将来像を描くかというところで、今年度中はこの部分に取り組み、来年度はここからさらに詰めていく予定である。

事務局に聞きたいのだが、今日、基本構想を固める予定か。

事務局) 当初、基本構想を3月中に形にする予定としていたが、もう少し議論を深める、テーマを研究する期間がほしいという意向も聞いているので、必ずしも年度内に形にしななければいけないわけではない。ただ、一定の期間内で検討してほしいということはある。

(1) 前回意見の振り返り

事務局) 前回の議事録案を提示させていただく。ご意見、修正点等があればお聞きしたい。

-意見無し-

【事務局 資料説明 略】

(2) 基本構想策定に向けた論点整理

【資料説明 略】

会長) これまでの2回で皆さんから出していただいたアイデアを振り返ってから、4月以降どういう作業をしていくのか相談できればと思う。

まずは2回分の振り返りだが、何か補足等があれば、また素案的なものが出てきたのでそれに対する意見があればお願いしたい。

委員) 今素案も出てきているところだが、夢を語る部分と、今能勢町でできていて全国的にも高いレベルにあるようなことは、これからさらに持続していくという視点も必要だと思った。

総合計画に関わるのは今回が初めてなのだが、本当に夢を語るような形でよいのか、それとも現実を見て実質的なものを含めていくのか、よくわかっていないのだが、私が思うのは今の素案だと、町にとって最も大事な医療・介護・福祉の視点が全く抜け落ちていると思う。

能勢は素晴らしいところで、この間、私が委員長をしている能勢町の介護保険事業運営委員会で第8期能勢町高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画が定まったのだが、その中でこの第6、7、8期で能勢町の介護保険の保険料は3年間全く変わらず据え置かれてきた。大阪府下では介護保険料はどんどん上がっているのだが、その中で介護保険料が変わっていないのは能勢町くらいだと思う。第7期のときも介護保険料が変わらなかったところは3団体くらいしかなかった。高齢者が40%もいる町で介護保険料を上げなくていいということは、健康で長生きできている町だということ。それを長所と捉えて入れていかないといけないと思うし、健康・福祉などに関する様々な取り組みをこの中に入れていかないといけない。なぜ健康で長生きできているかということが一番ポイントになるのではないかと。例えば兵庫県明石市は全国で最も住みたいまちで、人口がどんどん増えている。なぜかという、待機児童をゼロにしたり、中学までの子どもの医療費をタダにしたりといったことが、若い夫婦にとって子育てしやすく、子育てしたい住みたいまちになっているのである。能勢はそれができる町だと思うし、そういったところを全面に出していけばよいと思う。また成功しているまちのよい点をもっと取り入れたらどうかと思った。私どももこの8年くらい、医療・福祉・介護関係の委員をさせてもらっていて、能勢町の医療機関の先生方とも連携をとっているのだが、コロナのワクチン接種も4医療機関全てがすぐに手を挙げてくれた。そういった地域医療の基盤がしっかりしており、なおかつ介護・福祉も充実している。2025年まで作るようにいわれている地域包括ケアシステムが、すでに数年前から能勢にはできている。全国的にもとてもよいものを持っているので、さらによくしていくことで、何かあったら対応できる町になっていることを全面に出すことを、総合計画の中に含めていく必要があるのではないかと。地域包括ケアシステムを進化させるといった観点をこの計画に入れてもらうといいのではないかと。その中で人が増えていくのではないかと。こうした基本的なしっかりとしたものがあるということを出していかないといけないだろう。

SDGsの実現を町の理念として掲げているが、その中で医療・介護の分野もしっかり出していき、各分野と連携を図ることも大事ではないかと考えている。

会長) 若い人にターゲットを絞るということは確かにあると思う。

今の話から考えると、今できていることをまとめて整理し、見やすくして他の人もわかるようにすることが考えられる。この計画は次の10年のものなので、現実的に取り組めることと、夢の要素が大きいものと2種類あり、医療・福祉・健康はある程度実行できていて、そこにプラスαのものを加えていくことは現実路線の計画になり、さらに夢の要素が大きいものを含めると、3セットくらいで話を組み立てられるのではないかと。思う。

委員) 私の世代で移住をするとしたら、どのキーワードで動くかを考えたときに、まず子どもの教育だと思う。それから健康と仕事。この3つは生きるうえで、皆が大変重視していると考えられ、計画でも重要になる。最近私は能勢町のSDGsについて考えており、先生の研究も調べている。エビデンスベースでよくなっていることがわかるということは、非常に

よいこと。食べ物も空気もよく、コミュニティとして運動をする習慣もある。人の健康にスポットを当ててはどうか。

私の専門はエネルギーで、最近注目しているのは、いわば地域の健康。実は今までエネルギーは外に任せきりにしていた。だがエネルギーを外に任せ過ぎると、どれくらいエネルギーを使いどれくらいお金を使っているかというデータが戻ってこない。これを自分たちで行うとデータが回り始める。これでエネルギーやデータ、お金を回していくことは、地域を健康に戻す、自分たちの手に戻して考えていくことだと思う。

もう一つ、ここにある森林は能勢町の人だけが管理するものではないと思う。この森林は大阪、もっと言えば地球に貢献しているもの。にもかかわらず、心配しているのはこの地域の人たちだけ。この地域は実は地球の健康にとって大事であり貢献しているが評価されていないことが、ここに手がつかない原因になっているのだと思う。

すなわち自分たちは地球の健康に貢献していく、地域の緑を守っていることで、将来世代に貢献している、これがまさにこの町の SDGs ではないのかと考えている。キーワードは健康でなくてもよいのだが、何か明確にわかるものがあると、この関係人口が勝手に増えてくるのではないか。その目的に対して人が集まってくるというストーリーができるのではないかと思った。

副会長が話したことで自分も共感した。簡単ではないが難しい挑戦に取り組む地域だというメッセージはとても魅力的ではないかと思う。変わることを恐れず、挑戦し続け、今は不便かもしれないがその不便さをも楽しむという地域は、とても素敵ではないかと思った。

会 長) エビデンスをしっかりと作る作業を委員会自体に入れたほうがいいのかも。それだけでも大きな発信力になりそうな気がする。

委 員) 資料 3 に「能勢町の PR について（自動運転等の公道試験場としての利用、データ整理）」とあり、その横に「Society5.0・スマートシティ」とある。社会が全体的に Society5.0 の時代を迎えるが、それをどのように駆使していくか。能勢町の場合は、農業が非常に大事であるが、老人が農業をできなくなってきたおり、一方で若い世代は転出しているという現状がある。これは自然という宝の持ち腐れであると言え、ここに Society5.0 を活用し、農業の見える化、農業の組織体を作ることによって、農業の分業を進める。これで分担されることにより、農業が逆に簡素化してくる。農業が見えるようになると、今度は若い人が入ってくる分野が出てくる。コンピュータ管理をする人、研究したものを導入する人、実際に耕す人などいろいろな分野がある。それを若い人の力、能勢高校などに繋げていく。アウトカムがあればインプットもいろいろな問題が出てくるので、そこをどうしていくかというのが、今の我々の仕事だと思う。これを成果と定めたときに、何を手段とするか 1 点に絞ると、Society5.0 が出てくるのではないか。それが SDGs、持続可能性のある仕事になって、日本が世界に誇れる社会を作ることになる。日本人として誇れる力を養うのは教育であったり、地域のいろいろな考え方などが土台となる。人類が生きてきた過程をしっかりと見極めて、個々に挑むべきだと思う。

あと、Society2.0 は農業だったが、Society5.0 になると電波に乗ったような仕事になる。そうした中で農業の活性化を掘り下げると、見えてくるものがあるのではないか。そこには交通の問題もあれば医療の問題なども関係して、いろいろなものが動いてくるのではないか。つまり方向性を 1 点決めることが非常に大事になると思っている。

会長) 大事なところが農業だと思う。10年前の総合計画のときから心配されていたが、やはり担い手が高齢化していて、引退する人もいる。農業は10年では簡単に担い手育成までにはたどり着かない。関心を持つ人は出てきているので、これをいかに次の10年で伸ばすか、戦略は絶対に必要だろう。ただ、できてきている部分もあるという話が今回はかなり出ていて、それが健康の分野なのかもしれない。農業はあと数歩及ばない部分をどうするか、しっかり腰を据えて考えなければいけない。教育も健康も産業も全部そこに向かわなければならず、その中枢の部分はどうするか。まずは見えるように、部局も名前も構えるとか特色を打ち出すことは必要だろう。ここのメンバーの何人かで調査してデータを揃えてHPを作るという作業を担ったほうがいいかもしれない。

副会長) 「将来像」というのは、「実現できていくこと」「今後」に該当するものだが、今回はスローガンになってしまっており、そのことで表しにくいところがある。基本方針のところを書いていないことはないのだが、この一スローガンでまとまらないのではないかと思う。基本方針と混ざったような形の話になっているような気がする。その意味では基本方針で、今回、関係人口という今まであまり出てこなかった話に焦点を当てているが、皆さんの話では定住人口に触れられていて、そこが将来像のところにもう少し繋がっていく形にするのかどうか。また定住人口、関係人口という使い分けをするのか。それと未来都市とは何か、もう少し具体化する必要があるだろう。それからサブタイトルで「転入人口、関係人口を呼び込む開かれた能勢のまちづくり」とあるが、「転入人口、関係人口を呼び込む」というのはかなり手法的なもので、むしろ「開かれた」の部分のほうが大事で、ここをもっと書き込まないといけないと思う。今の資料構成からするとそこが基本方針に出ているかと思ったのだが、そこには関係人口について書かれていて、それが委員が指摘された抜けが生じている原因になっているのかもしれない。今まで扱ってきた中心のところは踏まえているが、定住人口については抜けていて、今回関係人口に着目したので、こういう抜け方をしたのか。そこをもう一度練り直して、将来像をもう少し書き込んでいく必要があると思う。「定住」「関係」という対立軸になるような書き方をしているのだから、抜けが発生した原因になったのではないか。

会長) 確かに関係人口に軸足を置くと、不具合が起きていることの記載が薄まってしまうのかもしれない。

委員) 将来像として「おおさかのてっぺん 里山未来都市を目指して ～転入人口、関係人口を呼び込む開かれた能勢のまちづくり～」と大変よく書いてもらっている。ここで関係人口という言葉が出てきた。これは前回の会議でもコンセンサスが得られたと思うが、具体的なことが必要だと思う。私はいつも土地と建物のことしか話さないが、最近空き地が目立ってきている。ここに関係人口を呼び込まないといけない。昔から土地が動かないと経済・世の中が動かないと言われている。土地が動かないと家も建たない、企業誘致もできないので、人口を流入させることもできない。それにはまず不動産関係者を動かさないといけない。それで土地が動けば司法書士も動くし、土建屋も動く。さらに家を建てるには多くの職人が動く。それがここに書かれている関係人口である。こうして関係人口を呼び込む。それで家が建てば転入人口が増える。人が入ってくれば、住民税や固定資産税が入る。最近ではスーパーのパート募集にも人が集まらないそうだ。理由は人口が減ってきているから。20年で5,000人も減っており、やはり人口減少はいろいろなところに影響を与えてい

る。だから関係人口を呼び込む必要がある。

「これまでの協議事項の整理」として書かれている中で、「空き家対策について」と書かれている。この空き家については、売りに出ているところは不動産業者が自ら動く。その人たちが動けば解消されると思う。

もう一つ書き入れてもらって大々的に取り上げてキャッチフレーズにしてもらいたいの
が、銀寄を世界農業遺産にすること。銀寄を10年後に自分たちの力で農業遺産にするんだという気持ち、これが能勢町の将来像になる。なぜか能勢町だけが栗の生育ができる。これはありがたいこと。それは財産である。10年あれば大変な栗林ができるので、それができたらもう一度申請したらよいと思う。その辺をうまく書き入れてほしい。

会 長) 能勢町は政令指定都市ではないので、農業に限らず、大阪府がもっている仕組みとの関係の中で動かざるを得ない。能勢町は人口が少ないので、なかなか能勢町をメインに考えてもらえず、それで動きにくい部分がある。そこで大阪府も納得できるような力のあるものも、この基本構想にほしいということは確かにある。

そこで一つ思うのが、「里山未来都市」と掲げているが、「里山都市」とは何かということ。これは新しい概念だと思う。普通は都市といえば、人口十数万人いることがベースになるが、ここを都市と呼ぶことは、提案なのではないかという気がしている。通常の都市は公共サービスのもとに数万人単位で人口が集積しているような場所のイメージだが、そうではなくて環境や健康、農業といったことが基軸になる新しい都市が「里山都市」で、それに「未来」が付いているという、今までにない新しいことを言っているということをわかりやすく伝えることができなかつたかと思った。「都市」にどこまでこだわるかという問題はあるが、人が健康に生き生きと長い年月を過ごして満足な人生を送ることが大事だと考えると、そういうことができる地域のあり方はこうであると提示しているのだと思う。そこを「里山未来都市」と呼ぼうとしたのだと思うが、まだ一般的に定着している言葉ではないので、そこが通じるようにもっていかないといけないだろう。

委 員) 昔は能勢電もここまで来ていなくて大変不便であったが、現在の情報が行き交う社会の中では、大阪のてっぺんで隔絶された場所にあるというのは、非常に強みだと思う。食べ物がいよというところは水がいよということだし、通過都市にならなくて済むということは、この町の大変な優位性だと思う。ここだけが大阪府の中で隔絶されていていいものを持っており、年寄りには元気で長生きしている。85歳を過ぎても介護保険も使わずに畑仕事をして元気に自立している年寄りがいかに多いかを実感している。それはここの空気や水、食べ物がよく、住民の精神が健康であることの証だと思う。このように老後のことは結果が出ているので、あとは教育の問題である。外に出ていかないといけない教育は、ここの交通事情が邪魔をしている。しかしこの中でよい教育が得られたら、これほどユニークでよい環境の町はないと思う。今までは能勢は取り残されたところというイメージがあったが、逆にそれを強みとして守っていけばいいと思う。

農地の問題は10年前に総合計画を作ったときに、都市計画のことや市街化調整区域のことなどたくさん出てきたが、この10年であまりよい方向には向かっていない。お米を作る農業のほうは淘汰されて、諦めている人がたくさんいる。機械にもお金がかかるので、機械が動かなくなったときに百姓を辞めるタイミングになっている。ただ、参入する人もいて、若い人で大掛かりに機械を使って何町歩もお米を作っている人もいる。だ

から能勢の中でも農業のあり方が変わってきた 10 年だったと実感している。

それから森林の問題だが、これは本当に放置されている。これは能勢町だけの問題ではなく、大阪府や日本の問題であり、地球の問題でもある。能勢の力だけではどうすることもできない。個人や森林組合の力では手に負える問題ではないので、他の方法を探るべきだ。ただ、この隔絶された大阪のてっぺんの森は守っていかないと大変なことになると思っている。昔、自分の子どもが小さいときに、木の間伐を見て、なぜこんなことをするのか聞かれたことがあったが、これが山を守ること、地球防衛のようなことと答えがあったが、やはり森がなくなるといい状態で回っている自然が止まってしまうので、森は守っていかないといけない。

この町で年寄りが元気でいる姿を見ると、この町が生き残っていく道は絶対にあると思う。栗やお米の問題、森の問題などいろいろあるが、この限られたエリアだけでユニークさは作っていけると思う。

会長) 「てっぺん」の意味が進化し始めた。

委員) 議論を聞いていて整理したいことがある。この計画では、今いる住民と情報共有してまちづくりを考えるイメージと、対外的にまちをアピールして人に来てもらうイメージとがあり、両方が交錯した中で議論をしている。最低限、今いる住民と共有できる計画にしないといけないのではないか。夢を語るとか定住人口を増やすなど、いろいろな議論の必要性があるとは思うのだが。それで今後の進め方のイメージだが、これは人から言われたことなのだが、外国人に能勢を英語表記すると“nose”となり“鼻”の意味になる。それで能勢は近畿のど真ん中にあり、鼻も顔の真ん中にあるので、これを逆手にとって、大阪をターゲットにするのではなく、もう少し大きくして近畿のど真ん中にある町というイメージで打ち出すほうがインパクトがあるのではないかと思った。

それから、交流人口や関係人口、定住人口という言葉の中で、関係人口について他の自治体で使っていた言葉なのだが、例えば“能勢ファン”を作るといった表現で、固い言葉よりも少しソフトなイメージを使ったほうがいいような気がした。

会長) 誰にわかるようにするかをきちんと入れるということは、確かにそのとおりだと思う。

まず、各分野の内容は、今の状態がしっかり見えるようにエビデンスをきちんと示すようにする。その上で今後 10 年で取り組める見込みがある内容と、夢というかチャレンジングな内容をその次の 10 年に向けて書く。分野ごとに組み込まなければいけない内容があるのだが、それをどの方向に発信するかについては、地元の方々にわかりやすい方向で書くべきものと、外部の人にもわかるように書くべきものの両方がある。それぞれのテーマごとに少しずつ重心の置き方が違ってくるだろう。基本計画をどう書くか見えてきたと思うので、4 月以降どう動くかも含めて、次回に向けて素案が作れそうな気がしている。最終的にどういう形にするか、次回の会議で相談できればと自分としては考えている。

他に何か指摘や意見はあるか。

委員) 今、介護保険や健康の話が出たが、ここが大変健康な町であることを知っている人はそれをよく意識しているが、特に若者はこういうことを知らない。能勢といえば、取り残されている町、何もできない町といったイメージが強くて、若者が流出しているのが現状である。しかし定住者が頑張って、先生方の力も借りて健康なまちができています。

で、そのことを定住者にまず知ってもらい、そこから外部に発信していき、それで外部の人に能勢に興味を持ってもらえるようにする必要がある。年寄りが町の中を車で動き回っているのは、年寄りが元気だからで、そうした町の現状について住民がプラスの発想をもっていけるようなものが作れたらと思う。

会長) 今話を聞いて思ったのが、4月以降に例えば健康の話を委員に講演してもらえれば大変なインパクトがあるだろうが、そうでないとしても、委員が皆で手分けをして調べるとか、役場に既にあるデータを取りそろえて整理する機会が出てくるだろうと思うが、そのときに見えてきた町の状況について、1年後に基本計画ができるのを待たずとも、住民に伝えることを行うほうがいいのではないかと。普通は、素案ができたときに意見募集のために閲覧されることになるのだが、計画案の中身がまだ固まっていない段階でも、数字として見えてきていることなどを住民に伝えていったほうがいいのではないかと。楽しく知るという機会を1度くらいは設けてもいいのではないかと。知らないこと自体が問題ということが、かなりあると思うので。

副会長) 話を聞いていて思うのが、本当に大事なものは近くにあるのに見えにくいということ。それを住民が自ら気づくのは難しいので、外部から専門家も入りながらそこで共に気づくことが大事なのだと思う。バスなどもなくなってから、その役割に気づくというのはよくある話。しかしなくなってからでは遅い。専門家も交えつつ、地元の人が自ら気づくプロセスがあってもいいのではと思った。

委員) 読売新聞の2月1日に「人口の減少が続き、消滅可能性都市とされる大阪府能勢町」と書かれている。これは電話して抗議すべきだ。転入者を呼び込むために議論しているのに、こんなことを書かれたら誰が入ってくるだろうか。ここで正式に抗議しておかないとまた書くだらう。

会長) この記事は私も驚いた。消滅可能性都市は京都市の某区も言われているが、かなりいい加減なもの。人口の減少率などを定数的に扱いシンプルに出しているものなので、あまりリアリティはない。消滅可能性都市といわれているところは日本全国にたくさんあり、かなり雑なアイデアで誰も信じていない。

報道とは難しいもので、間違った記事を書かれることも多々ある。今回我々が目立つようなことをするのであれば、こちらでその記事の原文のようなもの作成し、広報から報道機関に提供したほうがよい。よい記者で地域のことをよく知っていて、鋭い分析記事などを書いて発見してくれるタイプならいいのだが、一般的にはよくわからないままに記事を書かれて、それが逆の意味にも取れてしまうこともよくある。まちづくりを記事にしてもらっている地域の中には、文章の素案を自分たちで書いて、それを提供しているケースも多い。

今回の記事は出だしは厳しいが、読んでいくとポジティブな内容になっているし、こう言われている都市がこんなことをしているというインパクトはある。全体としては応援になっていると思う。逆に言うと、取り組みを取り上げられ始めていたということか。

委員) 少し補足したい。先ほど、人を呼び込む方策の一つとして、専門家の力を借りながらという話も出たが、昨年12月にもこの関係で読売新聞に取り上げられている。能勢高校が消滅可能性都市の活性化を探るということで、近畿大会で最優秀賞をとっている。能勢高校の中に「地域魅力化クラブ」というものがあり、そこで発信したものが今回受賞さ

れたということなのだが、現場の高校生がどのように見ているかということをごここで発表してもらってもできるのではないかと。これは2年生がまとめているので、まだ今なら受験前なので時間を取ってもらえるのではないかと。

事務局) 朝日新聞にも取り上げていただいている。

委員) 能勢高校が活性化をテーマにいろいろ取り組んでいるので、専門家だけでなく若い人たちからもいろいろな意見を聞いてみるのも一つかと思った。

会長) 今、農学部の評価がすごく高い。受験も難しくなっている。重要性を感じている若い人が多く、技術的にも最先端のものを持っているので、農学は次に伸びる要素がとて多い学部だといえる。あと、公立高校、特に豊中高校などがそうなのだが、学生がかなり前倒しで研究などに取り組むプログラムを入れている。阪大などとも提携して、卒論に近いレベルのものまで作成しているケースもあり、10年前の高校生の意見とはまた違うレベルの意見が出てくるということもある。能勢高校と一緒に取り組むことは、育成の面も含めて、非常に意義のあること。

「里山都市」とは何かというのも、能勢は近畿の真ん中であり、大阪の一部であり、例えば離島や豪雪地帯などとは全然違う。地続きでいろいろなところに行けて、実験的なこともかなりできるというポジションにある。「おおさかのてっぺん」というのは、その辺りのことを絶妙に言い表しているように思う。この「てっぺん」の意味自体がだいぶ進化しているような気がする。

そういうことも含めて、スケジュールの話に移ろうと思う。各分野やテーマごとにかなり作業をしないといけないということは見えてきたが、全体的には、今できていることをきちんとまとめて見られるものを作る。例えば米作りなどに限定すると、少し厳しい状況も見えてしまうかもしれない。とにかく実際にできていることの把握が必要だろう。

4月早々にはその作業をするメンバーを考えたほうがいいかもしれない。

(3) 今後のスケジュールについて

【事務局 資料説明 略】

会長) 今の説明のスケジュール感から、3カ月くらいでデータ集めや調査的なもの、農家へのヒアリングや空き地の状況を見に行くといったことに取り組みたい。また、デスクワークで今までの資料をつき合わせて見やすくしていく。そういうことを小さいグループに分けて分担して取り組んではどうか。もしくはこのメンバー自体が分野代表という意味合いもあるので、分野代表に現地を案内してもらって現状確認をすることも大事かもしれない。大阪府への聞き取りは行うのか。大阪府への都市計画上の内容の聞き取りは私に振ってもらえればと思う。

それから庁内調整については、基本構想レベルで各部局に何を聞くか。

事務局) 基本的に庁内については我々のほうで考えているが、中には担当課に聞かないとわからない部分がある。そういう部分は聞き取りをして、説明させてもらうこともできる。

会長) 資料4の緑の帯の審議会メンバーの部分とオレンジの帯の庁内調整の部分が、少しは合同グループになっても大丈夫か。あまりにも切り離しすぎないほうがいいと思うので。基本構想を確定させていく作業は別途になると思うが。

それで次のタイミングだが、年度内の3月にもう一度会議があるのだが、できれば4月からのグループワークを実施する3カ月間にやりたいことを、次回の会議に持ち寄りたいと考えている。こういう調査をしたいとか、委員の話を知りたいとか、副会長に交通に関する話を聞きたいとか、他の自治体の市街化調整区域はどうなっているかについて私が話をすることもできる。いずれにしても4月からの3カ月間に何をするか。自分で動くことが難しい分野について、こういうことを誰かに動いてほしいという提案でもよい。宿題になってしまうが、次回に持ち寄っていただき話し合いたい。

それで6月の終わり頃には報告会というか、それまでの成果を一部でもよいから見える化して公表したい。いきなりパブリックコメントを出すよりは、何か反応が返ってくるのではないか。皆さんに負担をかけない形で何かできないか、私のほうで考えてみる。

進め方についてはいかがだろうか。

-意見無し-

会 長) 来月の会議で、4月以降の全般の取り組みについて決めていこうと思うが、今のうちに相談しておくことはないか。

今日は基本計画の書き方がかなり見えてきたと思うので、その点とてもよかった。

では、意見がないようなので、事務局にお返しする。

(4) その他

事務局) 次回とその次の日程調整をさせていただきたい。3月と4月の中で都合のよい日を調整いただきたい。

神吉会長) 3月23日(火)の午後はどうか。

事務局) では、3月23日(火)の午後1時半からでお願いしたい。それから4月も調整をいただきたい。

神吉会長) 4月23日(金)はどうか。

事務局) では、4月23日(金)の1時半からとさせていただきたい。

・閉会

以上